

発表者 1 : 地球進化・生物圏変遷科学分野 1年 渡辺牧朗

白亜系蝦夷層群は、Yabe(1909)によって下部菊石層・三角貝砂岩層・上部菊石層に3区分された。その後、松本(1951)によって下部・中部・上部蝦夷層群及び函淵層群に区分された。また近年、夕張地域において本山他(1991)が従来の下部・中部・上部蝦夷層群を再区分している。蝦夷層群からはアンモナイト・イノセラムス等の大型化石を豊富に産し、古くから研究が盛んに行われている(Jimbo 1894、Yabe 1903、Matsumoto 1942など)。近年では有孔虫や放散虫などの微化石によって生層序学的な研究も行われている(竹谷陽二郎1995など)。本研究では、北海道中央部に位置する桂沢地域を研究地を選んだ。この地域には中部・上部蝦夷層群が分布し、地質図幅「幾春別」(吉田・神戸1955)をはじめ大型化石に関する古生物学的研究が数多く行われてきた(Matsumoto 1965など)。

蝦夷層群は北太平洋地域の白亜系の模式地になっている。化石層序・岩相層序の記録が連続的であるため、生層序学的な

研究に適している。本地域には上部白亜系 Coniacian ~ Santonian の地層が分布しており、アンモナイト・イノセラムスの生層序について古くから研究が行われ、詳細な化石帯の設定が行われてきた(利光他1995など)。また、放散虫層序についても隣接する夕張地域や浦河地域などにおいて研究が行われている(西田他1995など)。高柳(1985)は蝦夷層群について報告されている大型化石層序、微化石層序を統合し、より詳細な生層序区分を確立する必要性を指摘した。

本研究では、大型・微化石両者が産出する地域においてそれぞれの生層序を検討し、統合することを目的としている。演者は桂沢支流の熊追沢において、*Damesites damesi*をはじめ *Anagaudryceras limatum*、*Tetragonites glabrus*等のアンモナイト化石を報告し(Fig.1)、化石帯の設定を行った(渡辺、2007 MS)。しかしながら、微化石層序については十分な検討は行っていない。本報告では、卒業研究も含め新たに明らかになった知見を報告する。

 北海道三笠市桂沢湖上流域に分布する
 上部蝦夷層群の化石層序学的研究

(座長
: 伊藤利彦)



Fig.1
熊追沢からの産出アンモナイト
(スケールは1 cm)